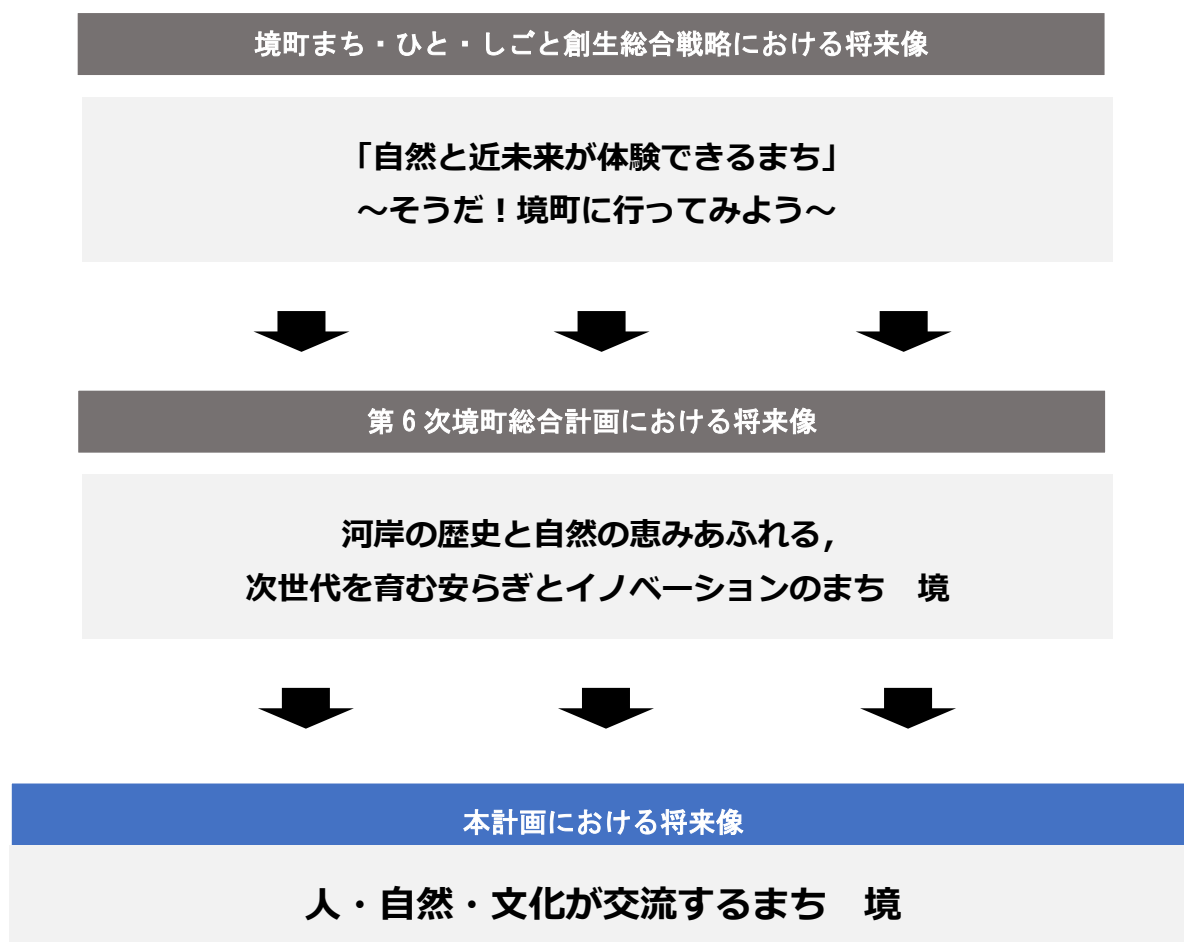


## 都市の将来像

# 1 将来像の設定

都市の将来像は、境町まち・ひと・しごと創生総合戦略（2016年3月策定）に位置づけられている将来像および本計画の上位計画となる「第6次境町総合計画」の基本理念「安心」・「多様性」・「最先端」を柱とした2030年における本町の将来像を踏まえ、以下の通り設定します。



本町は、利根川と江戸川の分岐点に位置し、水運の拠点（河岸）として、また、日光東街道の宿場町という性格を持つ交通の要衝として栄えてきました。

その後鉄道の開通により次第に交通の要衝としての機能を失ってしまいましたが、今後本町は、首都圏中央連絡自動車道や国道354号バイパスの開通に伴う人や物が行き交う交通の結節点として、またふれあいの里や利根川の河川敷空間、市街地の拠点等を活かした人と人、人と自然、人と文化の交流拠点として、「行ってみたい」、「住んでみたい」、「住み続けたい」と感じていただける魅力あふれる町を目指し、「人・自然・文化が交流するまち 境」を将来像として掲げます。

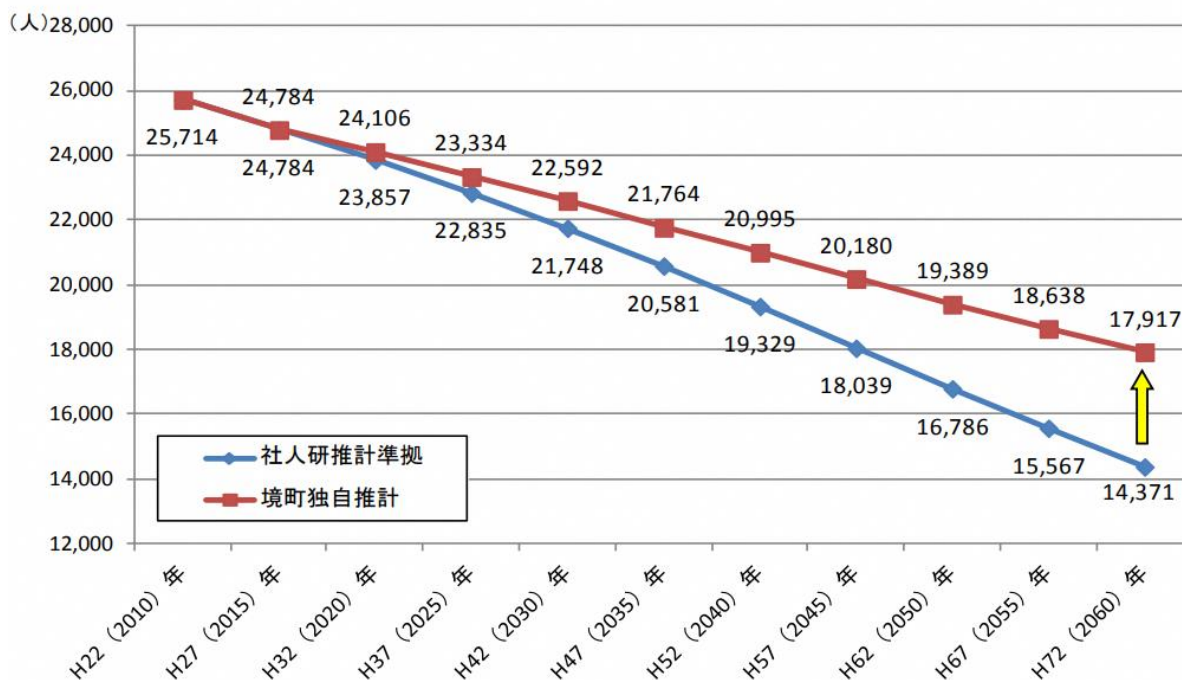
## 2 将来人口フレームの設定

本計画における将来人口フレームについては、以下の上位計画を踏まえ設定します。

### ①『境町人口ビジョン』での目標人口（将来展望）

○「まち・ひと・しごと創生法」に基づいて策定された『境町人口ビジョン』においては、子育て世帯の転入促進、転出抑制および出生率の向上による目標人口を以下のように設定しています。

	平成 22 (2010) 年	平成 32 (2020) 年	平成 42 (2030) 年	平成 52 (2040) 年	平成 62 (2050) 年	平成 72 (2060) 年
合計特殊出生率(境町)	1.45	1.6	1.8	2.1	2.1	2.1
総数	25,714	24,106	22,592	20,995	19,389	17,917
0～14 歳	3,579	2,965	2,833	2,952	2,970	2,711
15～64 歳	16,433	14,035	12,618	11,002	9,955	9,541
65 歳以上	5,702	7,107	7,141	7,041	6,463	5,665



(出典) 境町人口ビジョン(平成 27 年 10 月)

## ②『第6次境町総合計画』での将来人口

---

- 本計画の上位計画である「第6次境町総合計画」においては、『境町人口ビジョン』の見通しを踏まえ、将来人口を以下のように設定しています。

<b>【将来人口】：</b> 2030年に約 22,000人 2060年に約 18,000人を目指す
---

## ③本計画における将来人口フレーム

---

- 上位計画である第6次境町総合計画での将来人口については、『境町人口ビジョン』の見通しを踏まえたものであることから、本計画における将来人口フレームについても、都市計画だけでなく、産業、教育、医療、福祉等の様々な分野での総合的な取り組みを勘案した上で設定されている『境町人口ビジョン』を踏まえ2038年の推計値を採用することとします。

**【将来人口フレーム】**  
**約 21,000 人（2038年）**

### 3 将来都市構造の設定

本町の将来像については、人々や物が集う場所としての「拠点」、人、物が動く主要な動線としての「軸」、同じ特性を持った土地利用が連続して広がる範囲を示す「ゾーン」の3つの要素に分類して設定します。

#### ■ 拠点（都市の核として都市機能や人口密度の向上を図るエリア）

<b>生活賑わい拠点</b>	<p>身近で利便性の高い商業施設や業務施設を集積させて、祭りやイベント等を通じて、様々な人が交流し、町のにぎわいをつくる交流拠点。</p> <p><b>【まちなか賑わい拠点】</b> 商店街や役場、道の駅さかいを中心として、隣接する「商業交流拠点」との連携を踏まえながら、町民の交流や賑わいを生み出す拠点。</p> <p><b>【商業交流拠点】</b> 商業機能が集積し、町内外の人々が集い、交流する拠点。</p>
<b>健康福祉拠点</b>	<p>茨城西南医療センター病院，社会福祉会館，猿島コミュニティセンター，境シンパシーホール，利根老人ホーム，キッズハウスさかい，おおぞら保育園等を中心として、町民の健康づくりや福祉活動を支え、身近であたたかな地域や人のつながりを育む拠点。</p>
<b>IC 周辺開発拠点</b>	<p><b>【観光交流拠点】</b> ふれあいの里を中心として、農業と連携した観光交流，地域産業等と連携した新たな交流の仕組みづくり等に取り組む拠点。 防災の町として消防博物館等の誘致を図る拠点。 また，広域交通の拠点として必要な環境整備を図る拠点。</p> <p><b>【文化学習拠点】</b> まちなかの拠点を補完する行政機能の集積を図るとともに，歴史民俗資料館，境町総合運動場等を活用して学校教育や生涯学習にも対応する拠点。</p> <p><b>【産業系拠点】</b> 広域連携の要衝となる境古河インターチェンジ周辺における，町の経済の発展や働く場の確保に資する土地利用を図る拠点。</p>
<b>産業系拠点</b>	<p>新たな産業の立地や既存工業地の拡大等，企業ニーズに対応できる拠点。</p>
<b>スポーツレクリエーション拠点</b>	<p>町民や訪れる人の利用を見越した多様な交流の場として整備を図る拠点。</p>
<b>防災拠点</b>	<p>災害時の防災設備や，平常時における地域のコミュニティ拠点として，スマートインターチェンジを活用した河川防災ステーションの設置を検討する拠点。</p>

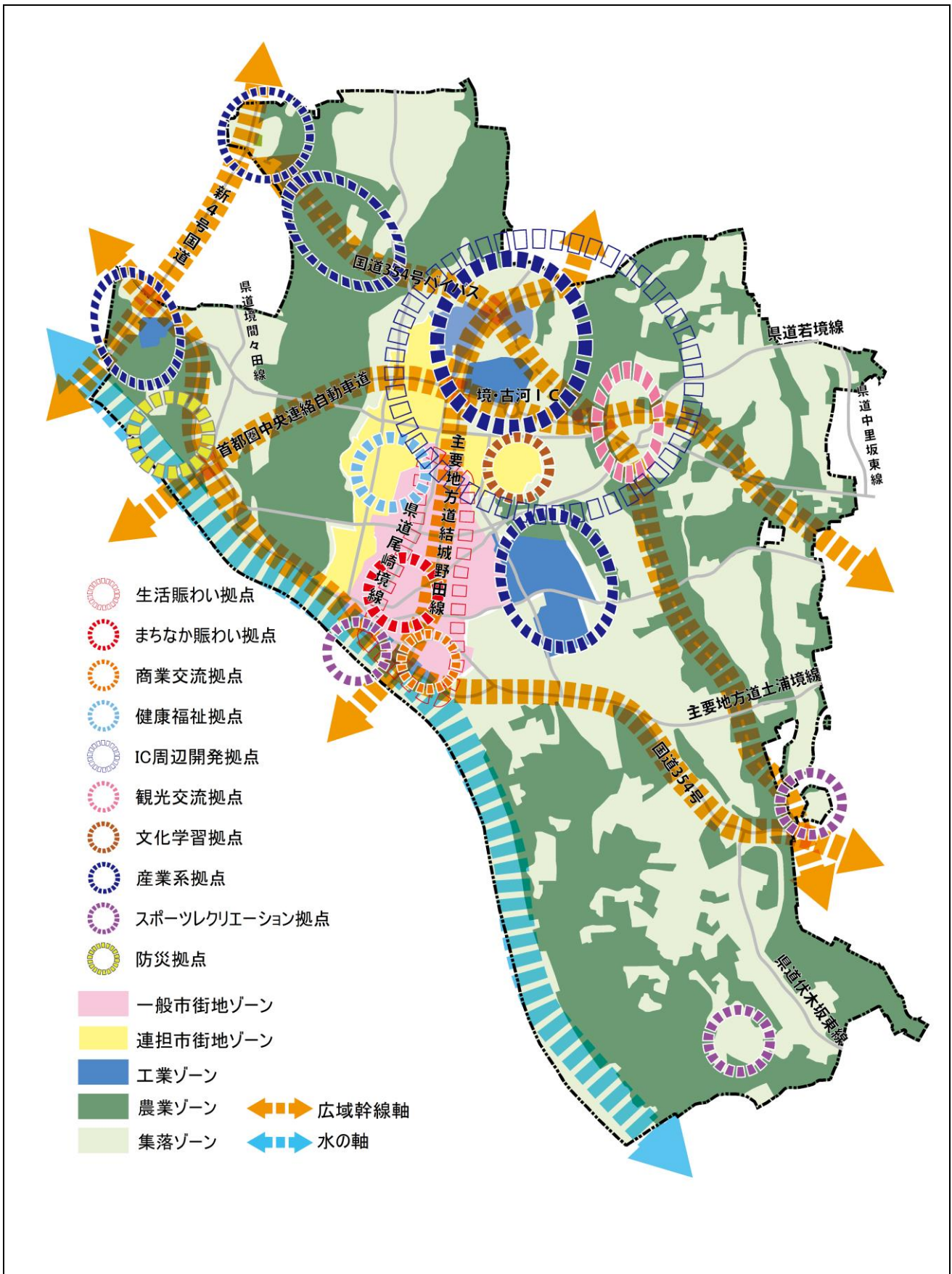
■軸（人や物の円滑な移動を確保する主要な動線）

広域連携軸	都市間を結び、町の発展を支える広域的な連携軸。
水の軸	自然とのふれあい連携軸。

■ゾーン（同じ特性・役割を有する連続した土地）

一般市街地ゾーン	安全・安心で快適な居住環境の確保に資する、住宅を中心とした土地利用誘導を図る市街地。
連担市街地ゾーン	市街地に連担するゾーンとして、住宅や日用品販売店等、低層建物を中心として、良好な居住環境の維持を図る区域。
工業ゾーン	町の産業を支える工業系の土地利用誘導を図る市街地。
農業ゾーン	優良な水田地帯として、その保全と積極的な活用を図る区域。
集落ゾーン	農産物の生産・加工・販売等の、複合的な土地利用を促進する区域。また、既存集落においては、地域の活力やコミュニティの維持のために、良好な居住環境の維持・創出を図る。

## ■ 将来都市構造図



■本町における生活利便性の確保に向けた拠点形成とネットワークのイメージ

